**米極秘文書から紐解く原爆投下の真実｜林千勝**

もうすぐ8月6日です先日ですね5月に 広島サミットン行われました 岸田総理核兵器のない世界の実現皆さんご 存知のように歌ってですね 各不使用の歴史継続へ明確なメッセージを 出すという ことでしたがこの成果を皆さんどのように ご覧になられているでしょうかなぜですね 広島長崎の人々の上に 原爆が落とされたのかここが私物事の本質 の根本だと思うんですねそしてこの経緯を 見てみますとですねアインシュタインの 手紙ルーズベルト大統領への手紙は有名 ですがそもそもドイツとの開発競争で原爆 開発が始まったんですねところがですね 経緯をずっと見てみますとですね当初から ですね10日大賞は日本だったんですね ドイツということは全くなかった当初から 10日目標は日本であったと そしてですね1943年5月の会議では

[01:11](https://www.youtube.com/watch?v=undefined&t=71s)

ですね日本の軍事施設に落とすとつまり 太平洋トラック島に集合してる連合艦隊に 落とすということが体制の意見だったん ですね何が言いたいかというと人々の頭の 上に落とすという発想は全くなかったと いうことですね 常識的に考えればありえないということ ですねこれを人々の頭の上に 落とすという風に大転換がなされたのが 1944年9月のハイドパーク会談ですね これもまあCGSで触れたかもしれません が ニューヨーク郊外のハイドパークにおいて ルーズベルト大統領とチャーチル首相が 会談しここにある原爆資料館広島平和記念 館にし展示されてるこの一次資料ですが ハイドパーク覚書というものを交わして ですねそこにこう書かれてる afterJapanese bewarethatthis サレンダーつまりですね 原爆が完成した暁には 熟慮の上にだが日本人に

[02:16](https://www.youtube.com/watch?v=undefined&t=136s)

落とすと使用するとこれ日本って国じゃ ないんですね 抽象的な日本という国でもないし物理的な 日本の国土という意味でもなくて大和民族 に 落とすと使用するとで彼らが降伏するまで は繰り返しですね 原爆を投下すると 警告するとということなんですねここで 初めて人間の目そして日本人の日本国民の 上に落とすということが 合意されたと 原爆投下目標は人間それは日本人 幸福しなければほぼ絶滅ですね 幸福が遅れればほぼ絶滅と警告するという 英米首脳の合意了解事項これは前にお話し したかもしれませんですねそして平和記念 館広島平和記念資料館は素晴らしい展示が たくさんあるんですけども一次資料に 基づいた展示がたくさんあるんですが 原爆投下理由をですね3つそこから総合し てですね原爆投下理由を3つあげることが できまし1番は今述べた日本人に対して ですね市街地労働者住民繰り返し2番目 膨大な開発経費表に出たものだけで 20億ドルですが当時のお金ですねを使っ

[03:19](https://www.youtube.com/watch?v=undefined&t=199s)

た開発の国内向け正当化3番目戦後のソ連 勢力拡大を抑止つまり 核による戦後秩序 核による支配権核による派遣ですねこの3 つが理由でございまして本土上陸作戦の 米軍の規制を回避するという理由はないん ですねあげられてないってことが非常に 重大なんですねそして今日の本題はここ からですよくある質問にですねなぜ長崎2 発目を投下したのかという質問があるん ですねそしてこれに対する 答え方としてですね広島はリトルボーイで ウラン型テネシー州の送り試験研究所で 開発した長崎をファットマンの プルトニウム型ワシントン州の ハンフォード研究所で開発した2つの系統 なんで2つを 落とさなければならなかったどっちかひと つってわけにいかなかったっていうような 言われ方がしてるんですけどもここから 本題ですが実はですねこのなぜ長崎に投下 したのかと質問が実は本質から外れてる 可能性があるんですねつまりなぜ長崎2発 目で止めたのかが本質的質問であるという 捉え方があるその話をしたいと思いますね

[04:23](https://www.youtube.com/watch?v=undefined&t=263s)

さっき言いましたように原爆の10日と いうものは来訪者繰り返しです 費用対効果からもそれから戦後の 核派遣という意味でもですね 普段の巨大な威力を見せた方がいいわけで つまり一発より2発の方がいい2発より3 発の終わり3発より5発の割合5発のより 10発のがいいですね一発だけだったら一 発あたり20億ドルですけど10発落とせ ば一発だったら2億ドルで費用対効果全然 違いますしね2発でも手放しよりもね どんどん続いてるんだということの方が 圧倒的に先ほどの透過目的を果たせるわけ ですけどもここに一次資料がございまして これは ジョージマーシャル図書館に保管されてる ものでですね2020年8月に機密会場に なったものですねトップシークレットの横 に線が入ってる入ってると思いますが ここにある資料はマンハッタン計画の最高 責任者であるグローブス将軍という方が ですねマンハッタン計画の使用メンバーに 当てた指令書です8月10日付けの指令所

[05:30](https://www.youtube.com/watch?v=undefined&t=330s)

で右上に8月10日と書いてありますねで 文章を読んでいくとですねこの赤枠の部分 ですが3発目は8月17日以降に10日と いう風になってるんですねこのことが 読み取れる文章の前の方はですね8月24 日以降投下できるということであったん ですけどもそれが前倒しできるようになっ たとよって日本人に8月17日以降3発目 を投下できると 投下するという指令書ですねこれがあの一 次資料で見ることができますねそして8月 10日同じ日ですがトルーマン大統領は 日本降伏が近づいているという情勢判断が あって一連の原爆投下を一旦停止するん ですねあくまでも一連の原爆投下です2発 で止めるとかそういう前提は全くないん ですねしかしこの8月10日に日本の ポツダム宣言受諾の方は入ってこなかった と そしてヘンリー ウォレスというですね閣僚の日記が残っ てるんですけどもこの8月10日に トルーマン大統領は初めてですね

[06:34](https://www.youtube.com/watch?v=undefined&t=394s)

原爆投下の非人道性を細巻きながら認識し たという風に書かれてますねつまり8月6 日に広島に落とし8月9日に長崎に落とし たでその10日後の状況の情報が入って くるんでしょそれであー自分が落とした 原爆っていうのは非人道的だったのかと いうこと8月10日に気がついたという ことが閣僚の日記に残ってますそして8月 13日にですね 原爆投下の実務の最高責任者ある将軍と いう方とそれからシーマン大佐という方の 電話会議の記録が残ってるんですね電話 会議の記録が残ってるある将軍というのは 陸軍の作戦部の参謀で戦後琉球の総督に なった方ですねそして シーマン大佐っていうのは先ほどの マンハッタン計画の最高責任者 がこの2人の電話会議記録が残ってまして 要点を述べますと2発の原爆は絶大な効果 を日本人に及ぼしたとつまり広島と長崎の 原爆は絶大な効果を日本人に及ぼして

[07:38](https://www.youtube.com/watch?v=undefined&t=458s)

良かったとそれから 繰り返し落とすという東証案に沿って8月 19日に3発目を投下できると先ほど17 日って言いましたがちょっと2日ずれたん ですねそして9月に4発目5発目の10日 ができると10月に6発目から8発目の 10日ができるとそして10日に一発の 原爆投下が 硬い線だとそして10日に一発ずつ日本に 落としていくだけではなくてまとめてです ねポンド上陸作戦の進行前に日本軍をその 殲滅するためにお父さん発達まとめといっ てまとめて落とすということも 検討しな検討できるということを8月13 日に電話会議で記録してるんですねという ことがわかっておりますそして8月14日 ですねトルーマン大統領と会談した ワシントンのイギリス行使これ貴族の方だ と思いますがイニス講師からイギリス本国 への 報告全文これが残ってましてこれが イギリス 英国の国立公文書館に残っておりまして ですねこの英文の報告によるとこういう

[08:43](https://www.youtube.com/watch?v=undefined&t=523s)

ことがわかってるんですねこれが一次資料 のそのものですね左上の囲み1945年8 月14日と書いたりありますけども thepresident remarctorythat know toorderatmicBAMtobe druptonTOKYOって書いてある んですけどもつまり8月14日現在でです ねトルーマン大統領の考えは3発目を東京 に落とすことだとそれ以外に選択肢はない というのがトルマ大統領の発言なんですね そして彼は数日前に非人道的っていうこと を認識しましたから一応サブリーと言って ますけども それ以外選択肢はないともう3発目を東京 に落とした既定事実というトルマの発言 ですね実際東京であったがね別の新潟で あったがそれは 今となっては知ることができませんが そして皆さんご存知のようにこの8月14 日にですね文章もうちょっと細かく見ます と日本の幸福宣言がまだ出ていない中 トルーマン大統領は再び原爆投下が必要に なるかもしれないと考えていた8月14日

[09:49](https://www.youtube.com/watch?v=undefined&t=589s)

のホワイトハウスでの会談後 ジョンバルフォア英国講師はねトルーマン が東京への原子爆弾投下を命令する以外に 選択肢はないと悲しげに発言したとさっき の電文で報告してるんですねそして皆さん ご存知のように 数時間後の午後4時5分8月14日の ワシントン時間の午後4時5分にホワイト ハウスに日本のポツダム宣言受諾の報告が 入ったんですねということで3発目がです ね東京に落ちなかった日本に落ちなかった ということが事実ですね なぜですね 米軍があるいは米が長崎2発目で止めたの かこの本質的な質問に対する答えは日本が 8月14日にポツダム戦の受諾したからと いうことなんですね日本降伏させること 自体が先ほど話したように目的ではなかっ たし10発あるいはそれ以上落とす 計画予定であったし まさか日本が降伏したので降伏した以上を 落とせないですからね 止まったというのが歴史的な一つの本質で あるということを我々知らなきゃいけない

[10:55](https://www.youtube.com/watch?v=undefined&t=655s)

おそらく英米の首脳たちは受けてるはず ですからね知らぬは日本人だけですねこの 戦争の真実に基づいてそしてこのこれ悲劇 ですよ戦争の悲劇を乗り越えてでこの地政 学的状況ですから一層の日米同盟の友情 日米同盟と友情を進化していかなきゃいけ ないとこのことに蓋をしてね知らないふり で歴史をやり過ごすということは日本人と してどうかなということを強く感じました ので皆さんに今日お話しさせていただき ましたまた詳しい話は別の機会にさらに ですね 詳しい詳細な話がありますがちょっと時間 の関係でここで一旦切らせていただきたい と思います戦争っていうのはこれだけです ね 悲惨なものでやし残格のものであるし非 人道的なものですですから絶対に戦争は 起こしてはならないそして歴史を振り返る ならばですね日本国民もアメリカ国民も 絶対に戦争を起こしてならないという決意 を持っていたし先ほど前回お話したように アメリカ国民は 専守防衛で固まってたんですねそれを

[11:59](https://www.youtube.com/watch?v=undefined&t=719s)

ひっくり返したのがグローバリズム 勢力というか ルーズベルト大統領のいろんな日本に 対する仕掛けでありです封じ込めであり そして残念ながら真珠湾奇襲というものが それを後押ししてしまったということです ねですから日本とアメリカの国民がですね とにかく共通の意識お互いに連携しよく コミュニケーションをとってですねその 戦争というものが爪とぎバトラー将軍の 戦いもそうですがいかにそのビジネスで ありね ウォール街が仕掛けグローバリスト勢力が 仕掛けていたものかとこれは歴史的事実 ですからね 陰謀論でも何でもなくてですねそのことを 共有し二度と同じ悲劇を起こしてはなら ないということをもう日々決意を持って 歩んでいかなければならないそのように 確信しております